

修了式 式辞



皆さん、おはようございます。中庭の満開の桜色、甲子園開幕、花粉で眼がかゆい、くしゃみが止まらない。まさに春本番です。

今日は、いよいよ本年度の「出校すべき日」の最後の日となりました。

そのこともあって、コロナの心配はありましたが、2年生、1年生の皆さんに、このように体育館に一堂に集まっていたいただきました。改めて自分たちが何者であるのかということを確認するため。先輩である3年生が既に卒業し、いよいよ皆さんが新3年生、新2年生として山門を引っ張っていく主体となるんだという覚悟を決めるため。「未知に挑むことは楽しいことである。」これは、皆さんと同じ筑後地区の高校生の言葉です。山門高校のことを頼んどくぞ！

本年度は、2年1組の生徒の皆さんに、校長室の掃除に来ていただきました。わずかな時間の中での会話がとても楽しかったですよ。いろいろな勉強になりましたし、修学旅行の中止を伝えた学年終礼の翌日、申し訳ない気持ちを引きずっていた私に、「校長先生、毎日の学校生活が楽しいですから、気にしないでいいですよ。」と言ってくれた生徒さんの言葉に、私は救われました。本当にありがたかった。2年生の昨日の「MiNi 運動会」を楽しむ姿も、嬉しく感じました。あまりの天気の良いさに、日焼けしていますね。

1年生は、コロナで学校行事ができず、私と“ませこぜ”になる機会もなく、校長の「取り扱い上の注意」がつかめないうち、つい先日の木曜日。書道の授業で中庭側を向いて筆を洗っていたのかな。出張のため中庭を通過して車の所に行く私に手を振っていただき、ここにきて、じわじわ〜と距離感の縮まりを感じています。

そして、何よりも1年生、2年生ともに、このコロナ禍の中での学校生活で、強くなっていますよ。自分ではわからないかもしれませんが、私はそう見えていますよ。

こんな山門の皆さんの良さや様々な頑張りを、次の1年生の志願者数に結び付けることができず、校長として本当に申し訳なく思っています。数字に直面して、改めて振り返ってみますと、“次元の違う頑張り”をしななければいけなかったのであろうと思っています。学校経営者として、能力がなかったことを恥じ入っています。

私はそうであっても、皆さんには頼りになる先生方がいらっしゃいます。1年生の学年通信。実に立派なものが出ています。皆さんの1年間の学習成績の伸びについての分析がよくなされていて、春休みにこのような力をつけて2年生への準備をしてほしいということが、実に具体的に示されています。愛情たっぷりです。2年生の学年通信も、それぞれの先生方からの、3年生になる皆さんへの愛情たっぷりの言葉に溢れています。温かい言葉の中の、富重先生のカッコイイ言葉には痺れました。このように、大切なものというのは、意外と身近なところにあるのではないかなと、改めて感じました。

それでは、私の校長生活の最後に、2年間山門高校の校長を務めさせていただいた、その最後のまとめにならないまとめです。

「至誠 信愛 創造」の山門生ですから、SNS上で時に見られるような、人の上げ足を取って留飲を下げるような人ではなく、人の喜びを自分の喜びとして受け止められるような人になってほしいと切に願っています。もちろん私も修行中です。「キレイに心磨けばきっと運命は笑いかける」はず、と信じて。

さようなら！すてきなおとなになりなさいよ！校歌に恥じない生き方をしてくださいね♪

